

## インバランス等収支計算書

2022年4月1日から  
2023年3月31日まで

(単位 百万円)

費用の部		収益の部	
項目	金額	項目	金額
営業費用	500,349	営業収益	471,662
地帯間購入電源費	191,413	地帯間販売電源料	173,282
(インバランス対応取引費用)	(134,149)	(インバランス対応取引収益)	(129,655)
(インバランスネットティング費用)	(20,487)	(インバランスネットティング収益)	(25,770)
(広域運用調整電力量に係る費用)	(36,777)	(広域運用調整電力量に係る収益)	(17,856)
他社購入電源費	294,655	他社販売電源料	85,097
(インバランス対応取引費用)	(△93,078)	(インバランス対応取引収益)	(-)
(インバランスの買取りに係る費用)	(256,343)	(追加供給電力量に係る収益)	(17,251)
(追加供給電力量に係る費用)	(43,075)	(追加供給力に係る収益)	(7,557)
(追加供給力に係る費用)	(27,904)	託送収益	197,711
社内取引費用	14,280	接続供給託送収益	197,711
(インバランス対応相当額取引費用)	(-)	(インバランスの供給に係る収益)	(197,711)
(インバランスの買取相当額取引費用)	(14,280)	(インバランスリスク料に係る収益)	(7,507)
		(インバランス調整に係る収益)	(-)
		社内取引収益	15,570
		(インバランス対応相当額取引収益)	(-)
		(インバランスの供給相当額取引収益)	(15,570)
		(インバランスリスク料相当額取引収益)	(2,844)
特別損失	-	特別利益	78
(インバランス調整に係る費用)	(-)	(インバランス調整に係る収益)	(78)
インバランス等取引損失	△28,609		

注1：インバランス等収支計算書の算定

インバランスの供給に係る電力量及びインバランスの買取りに係る電力量については、集約期間における三十分を単位とした同一の時間帯において、  
バランシンググループ毎の電力量を積み上げる方法で算出している。財務諸表作成時点で未確定のインバランス料金に係る精算額は見積値により計上している。なお、2022年度における確定額は、営業費用505,472百万円  
(地帯間購入電源費191,413百万円、他社購入電源費299,777百万円、社内取引費用14,280百万円)及び営業収益476,640百万円(地帯間販売電源料173,282  
百万円、他社販売電源料85,097百万円、託送収益202,689百万円、社内取引収益15,570百万円)である。

注2：インバランス等収支計算書におけるインバランスの供給に係る電力量は6,110百万kWh、インバランスの買取りに係る電力量は9,859百万kWhである。

注3：2022年度におけるインバランスの供給に係る電力量の確定値は6,522百万kWh、インバランスの買取りに係る電力量の確定値は10,334百万kWhである。

注4：インバランス等収支計算書におけるインバランスに係る債権の貸倒損及び貸倒損引当から貸倒損引当戻入を控除した額は2,749百万円である。